



# 日本近代文学の作品・作家研究

人文科学系・言語文化学領域

吉川 仁子

准教授 YOSHIKAWA Hitoko

修士(文学)(奈良女子大学)

## ■研究キーワード

日本近代文学、特に、夏目漱石の作品研究、奈良ゆかりの作家である志賀直哉の研究、志賀に師事した女性作家池田小菊の研究、関西の出版社である全国書房の研究

## ■主な所属学会

全国大学国語国文学会、日本文学協会会員、日本近代文学会、日本近代文学会関西支部

## ■研究者総覧

<https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.342795695d9f5d00520e17560c007669.html>



研究者総覧

## 研究概要

専門分野は日本近代文学です。作品の成立過程や作品構造の分析、作品が書かれた時代背景の調査、内容の精読を通して、作品の特質を解明することを目指しています。主に以下のような研究をしています。

### 1 夏目漱石の作品研究

### 2 奈良ゆかりの作家の研究

#### その1 志賀直哉の研究

#### その2 池田小菊の研究



池田 小菊



夏目漱石『こゝろ』復刻版

## アピールポイント

### 1 夏目漱石(1867-1916)の作品研究

漱石は多様な作品を書いた作家ですが、それらの作品に共通して描かれているのは、人の心の不思議や測りがたさというものです。『彼岸過迄』『行人』『こゝろ』など、主に、漱石の後期作品に関心をもって研究しています。

### 2 奈良ゆかりの作家の研究

#### その1 志賀直哉(1883-1971)の研究

志賀直哉は大正14(1925)年から昭和13(1937)年まで、奈良に住んでおり、武者小路実篤、滝井孝作、尾崎一雄、小林秀雄など、志賀を慕う文学者たちが奈良を訪れました。志賀直哉の持つそのような求心力を彼の文学のなかに明らかにしたいと考えています。

#### その2 池田小菊(1892-1967)の研究

池田小菊は、奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校の、附属小学校の訓導でしたが、在職中に、『朝日新聞』に『帰る日』(1925)という小説を連載しています。当時奈良に住んでいた志賀直哉に師事し、訓導をやめ作家修行をし、『奈良』(1938)という作品は、芥川賞候補作になりました。戦後は、奈良県の婦人会活動に尽力します。教師として、作家として、婦人活動家として、その時代において先駆的な活動をした女性です。小菊のことを知らない方も多と思います。小菊の作品や、小菊の活躍を、広く紹介するとともに、同時代の女性作家たちと同じように、女性の抱える問題を描いた小菊の作品について考察して行きたいと思っています。